
君の笑顔の守り方。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君の笑顔の守り方。

【NZコード】

N1552M

【作者名】

【あらすじ】

大好きな彼女・桜が、ある日交通事故で死んでしまう。

大好きだった桜が死んでしまった

廃人になってしまった拓耶。

そんななかで桜に会うために屋上から飛び降りる。

拓耶は、桜に会えるのか？！

(前書き)

なんか、ぐつだぐつだです。

三回目の投稿・・・??

死ネタですが、結構いい感じで仕上がったと思ってます。w
w
よろしくおねがいします。

大好きな君は・・・。もう。ここにはいない・・・。

大好きな君は・・・もう・・・。いない。

だったら、僕は生きていてもしょうがないや。・・・。

会いたいよ・・・。会いたいよ・・・。桜・・・。

神様・・・・はやく僕を桜に会わせて・・・・。

「た――――へ――――ち

朝、そんな大声で目が覚めた。

לען רשות רשות

そう思いながら、窓を開けて下を覗くと

「ひに」

と、笑いながらピースをしてくるあいつ。

「桜。近所迷惑だろおおがー！」

と、上から怒ると・・・。

「えへへwwwでもさ、拓耶。早くしないと、遅刻しちゃうよっ?」

と、またまた大声で叫んでくる。

「はあ・・・・。まつたく・・・・。」

そつやつてため息をつくと・・・・。

「分かったよーー!急ぐから、待つてろよ・?学校までチャリで送つてやるーー!」

そつやつて言つて、嬉しそうに笑つた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

桜と俺は、中学校からの仲で、家も隣だった。

付き合ってはじめたのは、中一の夏。

友人たちが、俺らの仲の良さと、お互いが両思いなのを知つてくつつけようとしたのが始まりだった。

お互いが、初彼・初彼同士で。

何をどうじたらいのか分からなかつたけど・・・・。

『愛し合つてたら、わからんくつても、だんだん分かり始めるよね

WW?『

つて、笑う桜が異常に可愛くつて・・・。優しくつて・・・。

絶対に、ここを一生守つて、愛してこいつへ、誓つたんだ・・・。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

『ふむる・・・。』

こんな時間に誰だらうへ?・

今は深夜・・・。

今日は、学校も終わつて、部活で疲れたけど。桜と帰つてきて癒えて・・・。

そんな一日だった・・・。

いつも通りの幸せな一日。

でも・・・なんだらうへ?の・・・胸騒ぎ・・・。

今は、深夜一時。

なんか、こんな時間にかかつてきたから、変な思いをしたのかな??

『がちや。』

「はい。稻見いみです。あつー！ 桜さんのお母様ですか？！」

なんだ。桜のお母さんか ｗｗうつわ。緊張するなあ。

つていうか、なんだよ。俺の勘。当たらねえな ｗｗ

そんな風にへらへらしてたのが間違いだつた。

次の言葉に俺は絶句と、妙に冷静な俺を感じるなんて思いもしなかつたんだ。

「え？？ 桜が・・・死んだ？？」

（あ・・・俺の勘・・・当たるじやん・・・）

妙に冷静な俺。

そして、感じる孤独感。

でも・・・桜・・・？？ 桜？ 嘘だろ・・・。 桜？

なんで・・・。

『・・・ごめんね・・・稻見君・・・わつたしも・・・本当に悔しくつて・・・。雨のせいでの、視界が悪くなつててね・・・。曲がつてくる車に・・・ひ・・・かれて・・・。即死で・・・。本当に、ごめんなさいね。桜を愛してくれたのに・・・。こんな・・・悲しい・・・別れか・・・た・・・。本当にごめんなさいね・・・。今まで本当にありがとうございました・・・。』

桜のお母さんの鳴き声が聞こえる。

おかしいな・・・。妙に遠くに聞こえるのこ・・・。

妙に近くに聞こえるんだ・・・。

悲しい・・・悲しい・・・悲しいよ・・・。

桜・・・。

・・・・・・・・・・・・・・・・

葬式にもお通夜にも出た。

悲しい・・・悲しい・・・。

でも、まったく感じられないんだ。

桜が死んだ事実。

だつて、朝日を覚ます時には、君の近所迷惑だらつてこいつほどの大きな声が聞こえて・・・、

でも・・・窓を開けて下を見ても誰もいなくつて。

玄関を開けると、いつも笑つてる君がいるんじゃないかつて思つて
玄関開けて。

そういうえば、今日は雨が降るんだったな。絶対あいつ、かつぱ持つてないぞ。つておもつて、あいつの分まで用意して……。

いらなりー! つかつぱをみて、今日は。桜やすみなんだっけ? つて思つて……。

学校にいくときには、チャリが妙に軽く感じるくせに、妙に誰かが乗つている感じもするんだ……。

そして、学校にいくと、あいつの席に花瓶が置いてある。

どうして……花瓶が置いてあるの? ?

だつて、そこには桜の席なんだ。

桜がいるんだ……笑つてる桜が見えるんだよ……。

ねえ。桜。どうしたら、君に会える? ?

どうしたら、君のあの笑顔が見られる? ?

ねえ……。答えてよ。桜……。

「なあ。最近、拓耶やばいよな。」

「え? ああ・うん。廢人……つて感じ。」

そんな会話なんて、耳にも入らなかつた。

暗い……。真つ暗だ。

ねえ。桜。僕に、光を『ねえて・・・。

「あ・・・そつか。」

そう思ふと突然、俺の中である考えが浮かんだ。

(そうだ。桜が死んだなら、僕も死ねば会えるんじゃないかな?)

そうか。そうだ・・・。

桜に会える・・・。

俺はそう思つと、一旦散で屋上までの階段を駆け上がる。

屋上は危ないからつて閉鎖されてたけど、奇跡的に開ける事が出来た。

『ぎいいー・・・。』

ああ・・・。蒼いなあ・・・。

そつか。そこに桜がいるんだね。

だから、妙に明るく感じるんだ・・・。

桜。。今から会いに行きます。

『ひゅつ。』

と、フェンスを乗り越える。

፩፻፻፻

「拓耶っ！！行くな！！！拓耶！！死んじゃうだろ？！」

（・・・ああ。時棹か・・・。『死んじゃう?』違うよ。僕は、
会いにいにいくんだ。桜に・・・。そこで、一生桜とすゞさんだ・・・。
・。）

「ふう・・・。」

そうやって笑うと、俺はフェンスから手を離し、屋上から飛び降りた。

大声で叫ぶ時棹の声

走馬燈のよつた驅け巡る思ひ出の数々。

そして、それが終わろうとした瞬間。

拓耶以上に大きく聞こえた声があつた。

「た・・く・・や・・。」

「……桜？！」

そう叫んだ瞬間。

ふわっと体が浮いた。

そして、見えた。

僕を支える桜の体と笑顔の桜。

「桜……じんなとじろひいたんだね。」

（今から行くから……。）

「……るな……。」

「へ？」

「来なくて……いいから。もう……大丈夫だから。ねえ。拓耶。お願い。幸せに……幸せに生きて……。私は、もうこの世には生きていけないけれど……。それでも。それでも。幸せに……。お願い……。」

そう、言つとふと姿を消して、俺の目の前にあるのは陸上部が運んでいるマット。

そして。

『どすん。』

とこづ、鈍い音の後に感じる激痛。

「あ・・・・・。痛・・・・・。」

陸上部のやつらがひづつして、そこから離れたみたいだけ、俺は、そのままアシテの上に寝転がりながら両手を見た。

あの時、確かに感じたぬくもり。

最初で最期のキスと、両手の温かさ。

そして・・・。最期の

「あ・・・・・。」

桜。いろいろ。こままでありがとう。助けてくれてありがとう。

今まで、俺は桜と過ごせて幸せでした。

あ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

一ヶ月後・・・・・

「お～～～。拓耶。退院おめつと～

「あ・・・・・。びっくりしたんだからね～・・

「もあ～～。びっくりしたんだからね～・・

「あははwww」めんねwww

あの後、俺はあまりの痛さに氣を失い、先生達が大騒ぎをして、最終的に救急車に運ばれて、すぐに手術。奇跡的に大怪我はしなかつたものの、？週間氣を失つて、精神状態も不安だったので、結果。一ヶ月の入院となつた。

正直言つて、ダサすぎる結果になつたわけだけどwww

でも。桜、君のおかげで助かつたんだ。

ありがと。づ。

ねえ？桜、今君はどこにいるの？どこでなにをしてて、何をして笑つてる？？

つていうか、笑つてる？？

俺さ、桜の笑顔が大好きだから、桜。お前がどこにいても、なにをしてても、笑つてほしいよ。

ねえ？桜。どこに行けば君に会える？君の笑顔に会える？？君の笑顔を守れる？

・・・わかつてるよ。

君への会いかたは、俺が笑う」と。

君の笑顔の会いかたは、俺が泣かないこと。

そして・・・。

君の笑顔の守り方。

それは、俺が幸せに生きていくことなんだよね。

分かつてるよ。

でもね。桜。俺、まだ。桜から立ち直れそうにはいかない。

俺の幸せは、桜の幸せを祈つて。桜の彼氏でいること。

でもいいかな？・

別れる気はさらうしないんだけど、もしも、別れる時が来たら、ちゅんと伝えに行きます。

ねえ。桜？・こんな結果になってしまったけど、これが俺の幸せだから。桜の思い通りにならなくつても、これが俺の幸せだから、笑つて。見守つて。

俺は、君の笑顔を守るから。

(後書き)

えっと・・・

すみません。

変な終わり方ですみません・・・。

自分できには、終わり方はよかったです・・・かな??

最期まで読んでくださいありがとうございましたw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1552m/>

君の笑顔の守り方。

2011年1月15日23時35分発行